

第3回 大宮公園ランドデザイン検討委員会

資 料

◆これまでの委員意見の総括	1
1. 第2回委員会、桜観覧会、ヒアリングにおける主な意見.....	1
2. 専門家としての視点から（ヒアリングにて伺った意見）	2
I. 大宮公園ランドデザインコンセプト（案）	3
II. 大宮公園のランドデザイン要素図・方針図	4
1. 大宮公園ランドデザイン要素図	4

平成30年 5月 18日

埼 玉 県 都 市 整 備 部

大宮公園ランドデザイン検討委員会 検討スケジュールについて

	委員会開催実績・予定
平成29年度 (2回)	10月17日 第1回検討委員会 2月 7日 第2回検討委員会
平成30年度 (3回)	<u>5月18日 第3回検討委員会</u> (県民への意見聴取) 11月 第4回検討委員会 1月 第5回検討委員会(最終とりまとめ)

◆これまでの委員意見の総括

1. 第2回委員会（2/17）、桜観覧会（4/5）、ヒアリング（3月下旬～4月中旬）における主な意見

	＜緑地・空間＞ 大宮公園の総合力	＜歴史＞ 氷川神社の社叢	＜環境（水）＞ 氷川にはじまるエコロジー	＜スポーツ＞ これからのスポーツとレクリエーション	＜観光＞ 彩の国光・かがやき 世界へ発信
第2回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ●大宮公園は3つの公園を一体として考えていった方が良い。 ●森（杜）は必要な空間。しかし現状では景観的に汚い印象がある（樹林、境界等）。 ●氷川がつなぐ歴史の森（杜）、武蔵野の風景、生活、文化、アート、見沼の田園的な風景をどうつなぐか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●第一公園は氷川神社の境内の一部であった。 ●大宮公園の金脈は氷川神社にある。 ●参道は参拝に向けて心を整える大切な空間であり、玄関である。 ●参道よりも大宮やさいたま新都心で買い物や飲食を誘導するようになった方が良いと思う。 ●長い参道と、大宮駅や新都心駅周辺などと一連で考えた方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●水系（水の流れ、エコロジーシステム）と水景（水の景観）に配慮すべき。 ●社叢と公園の間に水の流れがあり、憩いの場となると良い。 ●場所性を考えると、「水と森」の場所である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●大型スポーツ施設が密集しすぎている。 ●第一公園の歴史や個性を考えるとスポーツ施設はここにあるべきなのか？ ●公園との境界が曖昧で、気軽にスポーツを楽しむ雰囲気第一公園には合っているのではないか。 ●第一公園の雰囲気を壊さないようにエリア分けした方が良い。 ●双輪場は公園の魅力を下げていると感じる。ギャンブルのあり方も変わるだろう。 ●時代によって中身を変えられ、公共財としてどんどん使ってもらえるスポーツ施設が望ましい。 ●弓道は神事にも関わる。第一公園に必要だと思う。観光に活用する手もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●住民に愛されている公園であることが第一。愛されているとは生活の中にどう取り入れられているかということ。それが観光的価値を上げる。 ●夜間景観、盆栽の活かし方も観光要素として重要。 ●参道を活かして、楽しく歩ける空間を作ってほしい。 ●氷川神社、鉄道博物館、盆栽町を結ぶ動線が悪い。 ●氷川神社と大宮公園で一緒にイベントをする等、日本文化を発信していきたい。 ●大宮は今後重要な観光のハブになっていく。
桜観覧会	<ul style="list-style-type: none"> ●舟遊池まわりの景観づくりが大切。笹が生い茂っていて見通しが悪い。 ●多世代それぞれが楽しめて使いやすい公園であってほしい。大宮公園の歴史を感じられるエリア、ゆったりできるエリア近未来的なエリア、スポーツエリア等に分けていくのが良い。 ●歴史を踏まえた公園づくりをしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地形と氷川神社はグラウンドデザインを考慮上で変わらないもの。 	<ul style="list-style-type: none"> ●舟遊池まわりは非常に重要な視点場となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●現在はスポーツ公園というイメージもある。これは大宮公園の魅力の一つ。 ●ボールパークとして街全体の経済効果を高めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●氷川神社や盆栽は100年後も変わらずあるだろう。 ●ここでしか食べられないものがあると良い。例：うすら（かつての割烹旅館の名物）、鯉等
ヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> ●1つの公園ということに縛られすぎずに、第一公園、第二・三公園の両者の個性や場所性を活かしていくべき。 ●第一公園の樹林は密集しすぎている暗いイメージがある。メリハリが必要。 ●第一公園は武蔵野の風景が広がり、社叢として荘厳かつ自然への畏敬が感じられる空間であることが理想である。 ●第二公園は第一公園から来ると駐車場が広がり、奥行きが感じられない。 ●第三公園は気持ちの良い広場があり、完成された公園。 	<ul style="list-style-type: none"> ●氷川の歴史に関する祭りなどを開発しても良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●公園内の池は周囲の環境や水の流れがないことによって、澁んでいる印象がある。 ●水の流れがあり、それを感じること、そこで遊ぶことができることと良い。 ●広い意味で3つの公園の共通点は「水」であると思ったが、実際には水の印象が強いとは言えない。もう少し改善すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域のコミュニティを支える上でスポーツは大きな役割を果たす。 ●各競技に特化した施設が多すぎる印象がある。 ●現在流行しているスポーツが50年後もあるとは限らない。施設を作るのであれば多くの競技に応用可能で、グラウンドなのか公園なのか曖昧に作った方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●情報の核となるものがほしい。 ●公園の魅力を下げる施設はなくす方向が望ましい。 ●公園の中に足りないものは、食・アクセシビリティ・アート（文化的、芸術的なもの）。 ●ネーミングを考えた方が良い。 ●盆栽村へのつながり、見沼田圃とのつながりには価値がある。 ●盆栽を身近に感じる仕掛けが公園にあり、盆栽村へ誘導できると良い。

2. 専門家としての視点から（ヒアリングにて伺った意見）

テーマ	意見
まちづくりの方向性	<ul style="list-style-type: none"> • 地元の意向を汲み、住民を巻き込んで実行していくべきである。 • しっかりと公園を運営し、経済効果を生む場所にしなければならない。 • できる限り公的な資金に依存せず、地元の力で利益を生みながらやれると良い。
公園の景観表現	<ul style="list-style-type: none"> • 日本庭園は日本の自然の美を表現することである。 • その土地にあった自然景観を形成していくことが大切。ここは武蔵野の景が基本となるであろう。
観光について	<ul style="list-style-type: none"> • 2030年には、日本人観光客の6割が50歳以上となり、外国人観光客が日本人観光客の延べ宿泊数を上回る。（訪日外国人向けの体験コンテンツが観光の主力商品になる。） • 観光におけるニーズは、日本人は「宿」「食」「温泉」、外国人は自己成長や知識増進に関する「異文化体験」「ディープな地域体験」。 • 情報発信で大切なのは、「特別感（ここにしかない）」「限定感（今しかない）」「お得感」の3つである。
公園と芸術	<ul style="list-style-type: none"> • 彫刻は必ずしも全員に親しまれるとは限らない。公募してテンポラリーであれば、受け入れられるキャパシティも広がり、素材も多様になる。 • 県下の若手芸術家の作品を公募し、市民委員を入れた選出等の手法を取り入れると、若手芸術家の育成にもつながり、市民の関心も出て大宮公園が親しまれる要素ともなる。公園なので、子どもが遊べるものにする等公募要領のルールを作るのも良い。現地で制作過程を見てもらうという手もある。
スポーツについて	<ul style="list-style-type: none"> • 海外では試合が行なわれていないときに、いかに人が集まるかを意識している。カフェやバー、ホテルがある競技場も少なくない。人々が集まって楽しめる場所に競技場があると考えた方が良い。スポーツをする人もしない人も穏やかに交流していることも重要。 • 今後は施設を管理するというよりも、利益だけでなく地域住民の健康や満足度等を指標にして「経営する」という考え方が望ましいのではないか。
照明と見せ方	<ul style="list-style-type: none"> • 池周りは常時ライトアップし、その他は季節毎に演出したいエリアや物を決めると良い。 • 基本となる配線等の基盤はどのような照明にも対応できるよう整備しておくことが望ましい。 • 照明効果の実証実験を行ないながら、公園での夜景の市民権を得ていくことと良い。
神社との関係	<ul style="list-style-type: none"> • 神社としては、第一公園は武蔵野の風景と言える自然感の高い場所が理想である。 • 公園と協力して魅力を上げていきたい。 • 御神水を使ってクラフトビールを作った例もある。
情報の受発信について	<ul style="list-style-type: none"> • 東京発の電車や新幹線の中に大宮公園の宣伝PRを行なう等、発信ノウハウを考えるべき。 • ネーミングを考えた方が良いのではないか。
盆栽について	<ul style="list-style-type: none"> • 盆栽で使う木と公園の木は一緒である。 • 盆栽を含む文化スタイルや情報の発信地や和モダンの盆栽カフェ等が公園内にあると、盆栽を身近に感じる機会も増えるのではないか。
スポーツとまちづくりについて	<ul style="list-style-type: none"> • スポーツチームやスポーツ施設に限らず、それによって「経済効果があるかどうか」という視点が大切である。 • 公園で終始せず、広域ボールパークのようなまちとなり、大宮公園がまち全体の発展に寄与すると良い。

大宮公園ランドデザインコンセプト（案）

県民が愛する OMIYA 氷川の杜と原っぱ

【第一公園】

～ゆるぎないシンボル、誇りの創造～

- 氷川の杜を受け継ぐ空間・景観をつくります。
- 県民の心のよりどころとなる多様な生活シーン（祈り、遊び、学び、憩い…）をつくります。
- 公園から、都市の文化をたどるシーケンス（さいたま新都心～大宮～氷川神社～盆栽村）をつくります。

【第二、第三公園】

～多様なアクティビティの創造～

- 時代の要請に応える自由度の高い空間（広場、原っぱ、スポーツ施設…）をつくります。
- 公園から、芝川沿いに見沼たんぼの農の風景、活動を広げます。

5つのテーマにおけるランドデザインの方針

<緑地・空間>

- ・社叢と園内林地、成熟の杜へ
- ・暗い杜から明るい杜へイメージチェンジ
- ・多様な日常活動に応える広場の創出

<歴史>

- ・氷川の歴史の継承
- ・本多静六博士の公園に込めた思いの継承
- ・前川建築の活用

<環境（水・エコロジー）>

- ・水辺空間の印象の向上
- ・水景、水の流れ、水に接するレクリエーションの創出
- ・見沼の自然の継承

<スポーツ・レクリエーション>

- ・大規模スポーツ施設の整理
- ・参加性の高いスポーツ・レクリエーション空間の創出
- ・時代の要請に適應する空間の創出

<観光>

- ・情報核の設置
- ・飲食施設の整備や新たなサービス施設の充実
- ・都市の文化をたどるルートのシーケンスの創造
- ・水でたどる農のルートの拡充

Ⅱ. 大宮公園グランドデザイン要素図・方針図

1. 大宮公園グランドデザイン要素図

要素図-1 < 緑地・空間 >

●グランドデザインの方針

- ・社叢と園内林地、成熟の杜へ
- ・暗い杜から明るい杜へイメージチェンジ
- ・多様な日常活動に応える広場の創出

●凡例

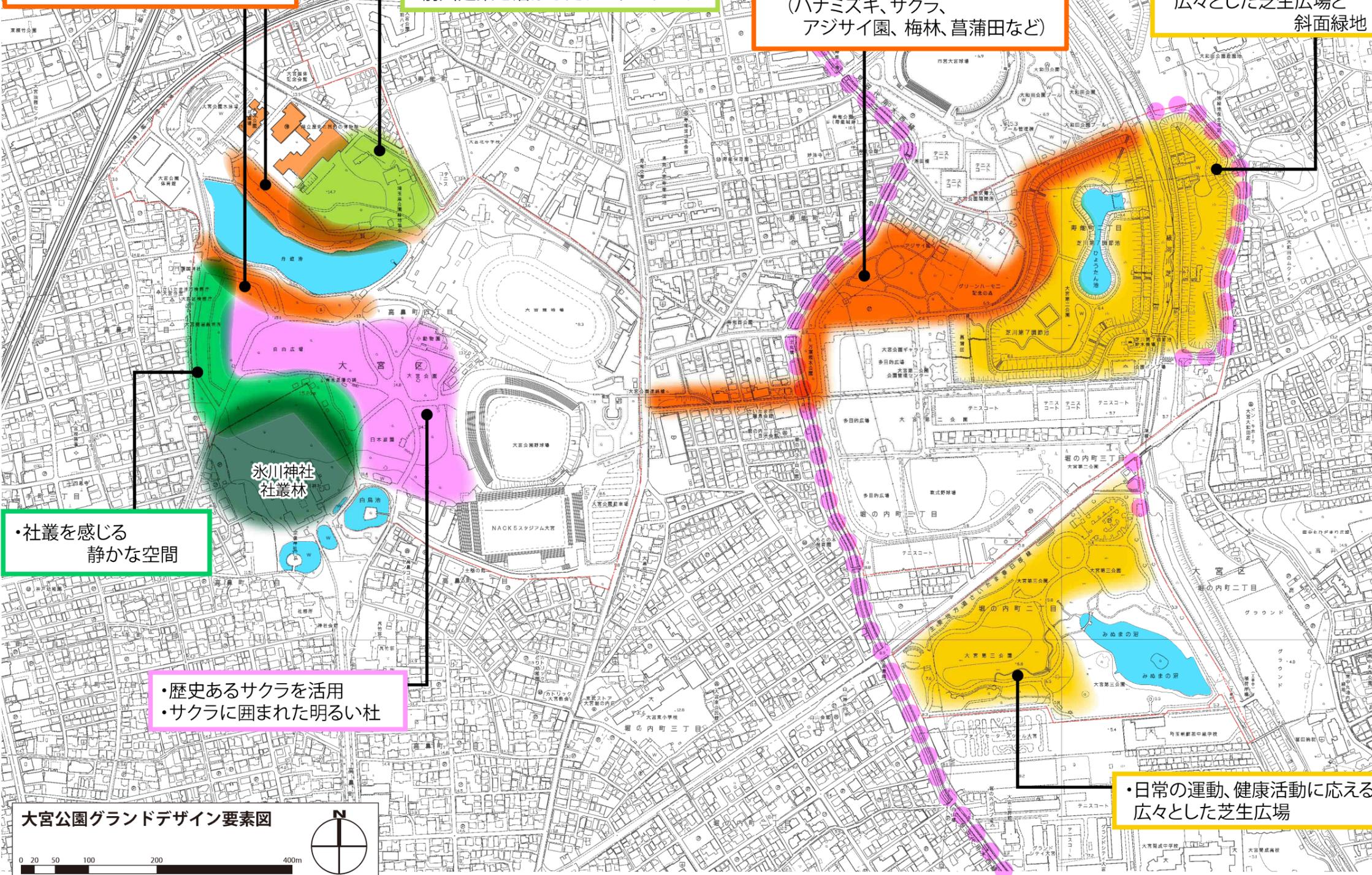
- | | | | |
|---|-------------|---|------------|
|  | 社叢的な空間 |  | 季節感を強調する空間 |
|  | 巨樹を中心とした空間 |  | 芝生(草)中心の空間 |
|  | サクラを中心とした空間 |  | 水辺のサクラ並木 |

・水面に映える季節感豊かな杜

・前川建築を活かしたランドスケープ

・季節を彩る花を楽しむ空間
(ハナミズキ、サクラ、アジサイ園、梅林、菖蒲田など)

・防災機能を有した
広々とした芝生広場と
斜面緑地



・社叢を感じる
静かな空間

・歴史あるサクラを活用
・サクラに囲まれた明るい杜

・日常の運動、健康活動に応える
広々とした芝生広場



●イメージ写真等

・社叢を感じる静かな空間



・明るい杜



・多様な日常活動に応える広場



・水に映える杜



※ミュージアムビルレッジ大宮公園トークイベントブックレット「氷川神社の歴史を語る-自然と文化-」より

要素図-2 < 歴史（氷川神社） >

●グランドデザインの方針

- ・氷川の歴史の継承
- ・本多静六博士の公園にこめた思いの継承
- ・前川建築の活用

●凡例

- 氷川神社
- 歴史スポット

前川建築（歴史と民俗の博物館）

- ・外構、展示ソフトなどの充実
- ・盆栽村との協力体制の構築

遊園地ホテル跡

- ・園内歴史資源の散策ストーリーへの活用

本多静六博士の

公園に込めた思いの継承

高級料亭や旅館、休憩所跡

- (万松楼、含翠楼等、日本庭園内の大唐子)
- ・園内歴史資源の散策ストーリーへの活用

氷川神社—歴史空間の活用

- ・スピリチュアル資源の活用
- ・氷川のパワースポットの公園への展開

芝川調節池

- ・地域の歴史学習
- ・防災への展開

氷川参道—歴史空間の活用

- ・氷川神社へのアプローチ
- ・大宮公園へのアプローチ

鷹止めの松

- ・園内歴史資源の散策ストーリーへの活用

みぬまの沼

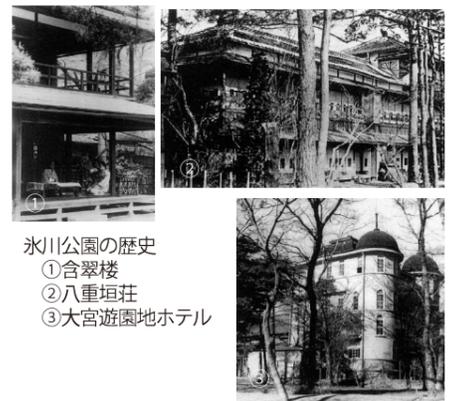
- ・地域の歴史学習への展開
- ・見沼の姿の復元

大宮公園グランドデザイン要素図



●イメージ写真等

・氷川の歴史



・前川建築



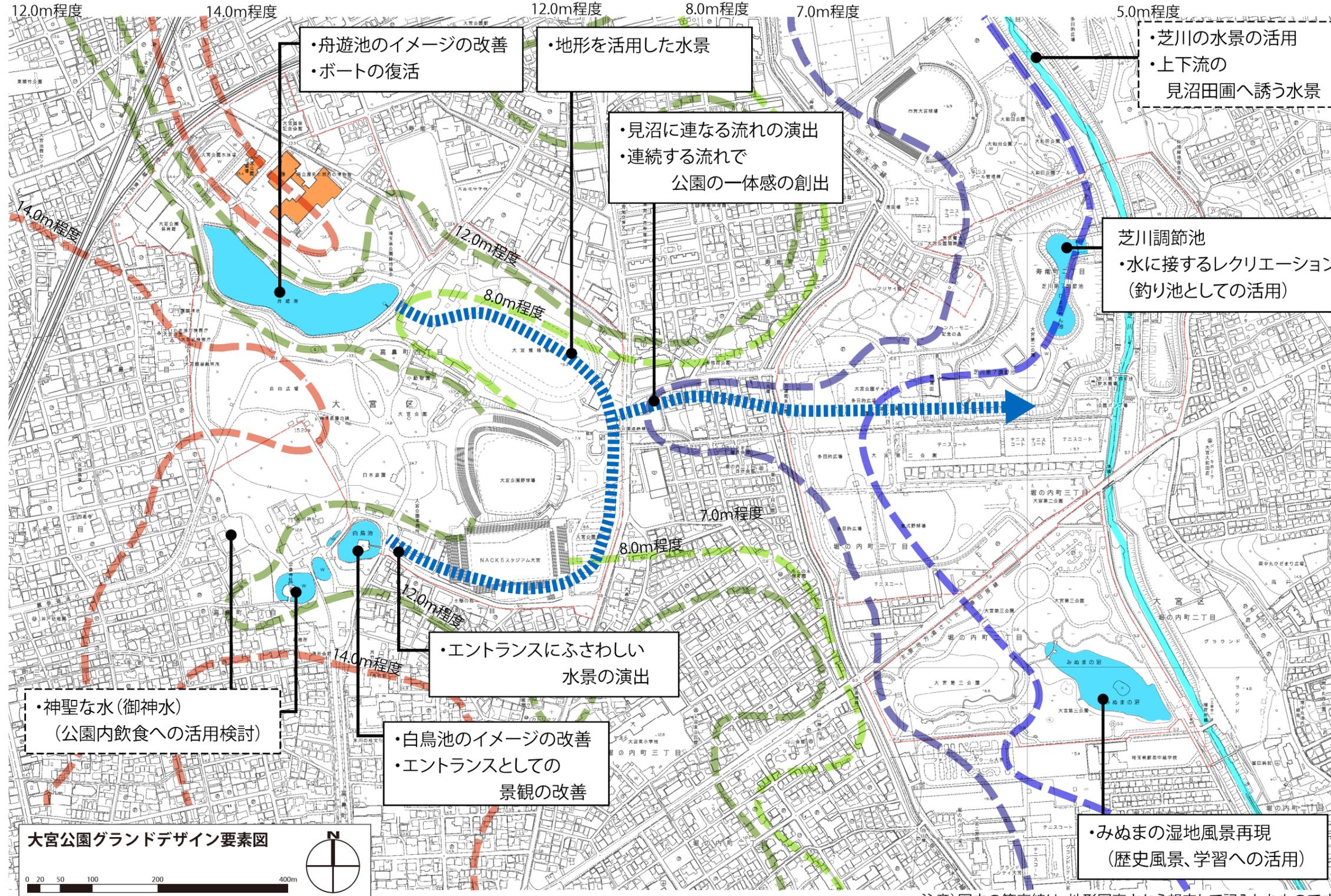
要素図-3 < 水 (エコロジー) >

● グランドデザインの方針

- ・水辺空間の印象の向上
- ・水景、水の流れ、水に接するレクリエーションの創出
- ・見沼の自然の継承

● 凡例

- 地形に沿った水の流れ
- 14.0m程度 (等高線)
- 12.0m程度 (等高線)
- 8.0m程度 (等高線)
- 7.0m程度 (等高線)
- 5.0m程度 (等高線)



● イメージ写真等

- ・水辺空間の印象の向上
- ・水と接するレクリエーション



- ・見沼の自然の継承



注意) 図中の等高線は、地形図高さから想定して記入したものです。

要素図-5<観光>

●グランドデザインの方針

- ・情報核の設置
- ・飲食施設の整備や新たなサービス施設の充実
- ・都市の文化をたどるルートのシーケンスの創造
- ・水でたどる農のルートの拡充

●凡例

- 氷川神社
- 前川建築
- 見沼田圃
- 中核施設
- 水辺を活用した景観エリア

●イメージ写真等

・情報核、ゲート



・新たなサービス施設の充実



・都市の文化をたどるルート

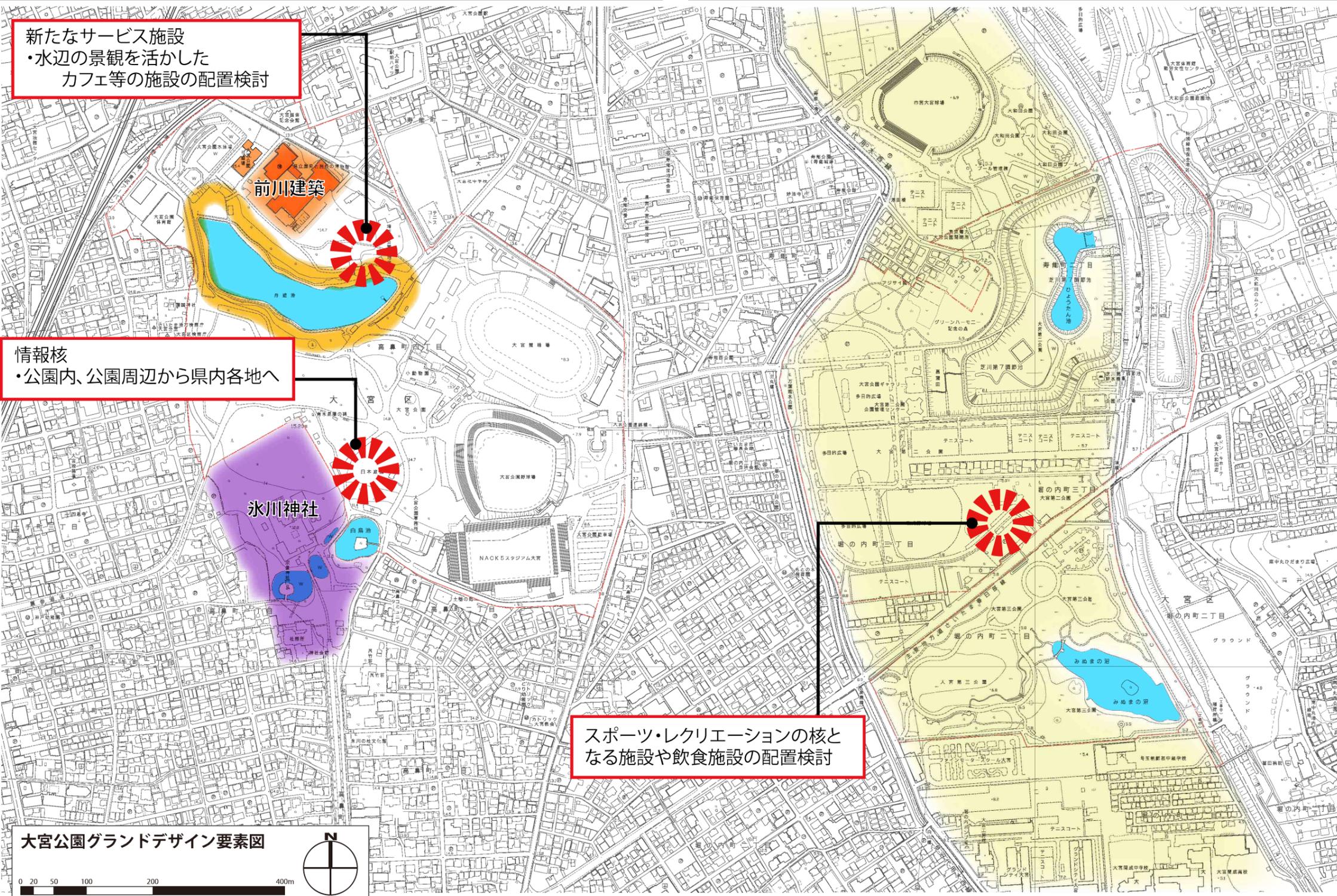


※トリップアドバイザー提供

新たなサービス施設
・水辺の景観を活かした
カフェ等の施設の配置検討

情報核
・公園内、公園周辺から県内各地へ

スポーツ・レクリエーションの核となる施設や飲食施設の配置検討



大宮公園グランドデザイン要素図